

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (12)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。それらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、彼らの言説の誤りを総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト (http://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をこらんどください。

本文中、真の父母様のみ言や「原理講論」等は「青色」で、サンクチュアリ教会側の主張は「茶色」で色分けしています。

【24】アベル女性UN創設大会」に関するお母様批判への応答
サンクチュアリ教会の人は、以下のように語って、真のお母様を批判します。

「二〇一二年七月十六日、真のお父様の最後の創設大会の講演『アベル女性UN創設大会』において、真のお父様は、講演文を読むことを一時止められ、大観衆の前で、真のお母様に對し、『自分勝手にやっている』

と語られた。真のお父様のその語気の強さから、とてもおふたりが一体化しているとは思えない」
サンクチュアリ教会は、上記の部分で約一分間の映像にして各方面に送り、真のお母様批判を拡散させています。また、映像の「静止画面」をメールに添付して、各方面に送りつけています【写真1、2参照】。
真のお父様の講演は約一時間二十分の長時間にわたるもので

勝手に。ん。世界的な女性代表である真の母に侍り、真なる母の像、真なる妻の像を確立し、真の愛の運動によって理想的な家庭を結実させなければならず」

この部分を、忠実にディクテーションして翻訳すれば、次のようになります。

「私たち夫婦が二十年前、本連合の創設時に明らかにしたメッセージの精神に従って、勝利した世界的な女性代表である真のお母様に侍り、お母様を私が育ててきました。母がいまません。文総裁の妻の位置もありません。



「勝利した世界的な女性代表である真のお母様(チャムオモニム)に侍り」と言い換えておられます。この「真のお母様」という部分は、韓鶴子女史を意識された表現であり、その韓女史を「勝利した世界的な女性

ですが、サンクチュアリ教会は、そのうち約一分間だけを切り取って批判に利用します。しかも、映像の冒頭には「文鮮明師最後のスピーチとなったアベル女性UN創設大会、基調講演での驚くべき発言」という字幕を置くことで、いかにもお父様が真のお母様を批判しているかのように受け止めさせようとミスリードしています。

まず、留意しておかなければならない点は、このときの真のお父様は、講演文を読みながら随時アドリブでさまざまな内容を語られつつ講演をされた点です。特別にこの部分だけアドリブを挟んで語られたのではありません。サンクチュアリ教会は「講演文を読むことを一時止められ」と述べ、いかにもこの部分だけで特別なことが起こったかのように述べますが、実際は、お父様は講演全体で、常にアドリブを交えながら語り続けられたことを知っておく必要があります

代表である」と語っておられます。つまり、お父様は、私たちに對しそのような「勝利した世界的な女性代表である」韓女史に「侍り」なさいと命じておられるのです。

続いて、注目すべき部分が「固有名詞」と「一般名詞」の使い分けです。真のお父様は、それに続くアドリブ部分の最初の「お母様」という言葉を、固有名詞で「お母様(オモニム)」と語っておられます。

したがって、そのような「勝利した世界的な女性代表である真のお母様(韓女史)」を「私(お父様)が育ててきました」と語っておられ、これは、真のお父様が、明らかに勝利された真のお母様を誇りに思っておられ、そういう真の母を育ててこられたことを自負しておられる表現です。

ところが、それに続く「母がいまません」の文言は、それまでと違い、「一般名詞」で「母(オ

ます。サンクチュアリ教会の表現は、事実と懸け離れたオーバーなものであり、要注意です。ところで、サンクチュアリ教会の批判は、真のお父様の講演文全体の流れを無視しているだけでなく、約一分間の映像を詳細に検討すると、お父様の語っておられる内容から大きく逸脱した、とんでもないものであることが明白となります。

彼らが拡散している約一分間の映像に付されたテロップ(字幕)は、次のようになっていきます。(注:太字ゴシック体は、講演文。明朝体の文字は、お父様がアドリブで語られた部分)

「私たち夫婦が二十年前、本連合の創設時に明らかにしたメッセージの精神に従って、勝利した世界的な女性代表である真の母に侍り、オモニを私が育ててきたよ。オモニはいません。文総裁の妻の位置もいません。自分勝手にやっている!! 自分

モニ」と語っておられます。サンクチュアリ教会は、そのような違いがあるのを無視し、いずれの言葉も「オモニ」とカタカナでテロップを入れることで、日本人が見るとき、いかにも韓女史について語っているかのように見えるよう、カモフラージュしているとも言えます。

しかし、「母がいまません」という文言は、「一般名詞」で語られているものであり、これは、今までの歴史において勝利した母がいなかった(しかし、韓女史が初めて勝利した母として立った)ということであり、韓女史を指して語っておられるのではありません。むしろ、韓女史や女性一般に向かって、韓女史のように勝利した「母がいまません」と語っておられるのです。もし、この部分の「母がいまません」が、韓女史であると仮定するならば、その直前で「勝利した世界的な女性代表である真のお母様に侍り」なさいと命じてお

